

# 認定中心市街地活性化基本計画のフォローアップに関する報告

平成20年12月  
福岡県北九州市（黒崎地区）

## I. ポイント

○計画期間;平成20年7月～平成25年3月(4年9ヶ月)

### (1)概況

基本計画の初年度であり、司令塔となる黒崎地区中心市街地活性化協議会を中心に、基本計画の実行段階としての取組みがスタートした。

協議会においては、メンバーの追加や、幹事会および専門部会を設けるなど、地元推進体制の充実に図りながら、基本計画掲載事業についての意見調整をはじめ、セミナーや講演会の開催、事例調査、情報交換、新たな取組みの検討を行うなど、多様な関係主体を巻き込んだ活動を行っている。

基本計画掲載事業の主な動きとしては、公共事業では、黒崎再生の起爆剤として大きく期待されている「文化・交流拠点地区の整備」については、事業実施に向けた具体的な検討に着手し、本年10月、施設整備の規模や基本的な考え方などを示す整備方針（素案）をとりまとめるなど、基本計画の期間内でのスピード感を持った取組みを進めている。

また、民間事業においては、黒崎再生の中心プロジェクトである「コムシティの再生」について、現在、空きビルの所有者である民間事業者が、事業計画の最終的なとりまとめを行うとともに、改修工事の準備も並行して進めており、早期再生の実現に向けて精力的に活動している。

商店街を中心としたソフト事業では、地元商店街の若手メンバーが中心となって新たに企画したイベント「クロ(96)の日」の開催や、「賑わい交流機能の整備」に向けて、若手やNPOを中心にワークショップが行われるなど、活性化を目指す地域の機運の高まりが表れている。

さらに、基本計画エリアに隣接する黒崎駅北側においては、本年10月、国道3号黒崎バイパスの一部が暫定供用開始されるなど、黒崎副都心全体としての動きも着実に進展が図られている状況である。

### (2)目標達成の見通し

目標	目標指標	基準値 (年)	目標値 (H24fy)	最新値 (H20fy)	見通し
来街者で賑わうまち (集客と回遊性の強化)	中心市街地における 歩行者通行量	20,164人/日 (H19年)	27,000人/日	19,541人/日	
住みたい・住み続けたいまち (定住人口の増進)	中心市街地内の居住 人口	5,689人 (H19年)	6,300人	5,757人	
経済活力のあるまち (商業の活性化)	中心市街地の小売業 年間商品販売額	43,500百万円 (H19年度)	48,700百万円	平成21年度 フォローアップ予定	
	中心商店街ゾーンの 空き店舗率	21% (H19年)	16%	20%	

- 注) : 事業等の進捗状況が極めて順調であり、相当程度の余裕をもって目標達成可能であると見込まれる。  
: 事業等の進捗状況が概ね予定通りであり、目標達成可能と見込まれる。  
: 事業等の進捗状況が予定通りではないものの、依然として、目標達成可能と見込まれ、引き続き最大限努力していく。  
: 事業等の進捗に相当程度の支障が生じており、目標達成が困難と見込まれ、今後対策を講じる必要がある。  
: 事業等が実施されていないため、今回は評価対象外。

<達成状況の評価及び見通しの理由>

基本計画掲載事業は、概ね予定どおりに進捗が図られているが、事業の実施効果が目標数値に表れる段階ではないため、各指標共に、今回は評価対象外。

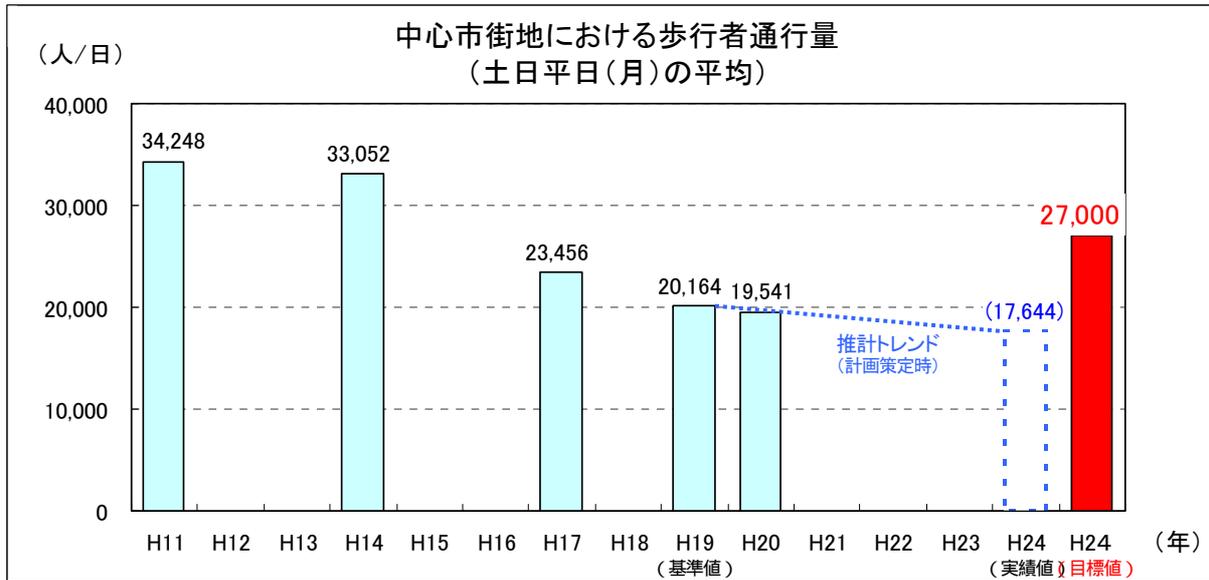
(3) 今後の対応

中心市街地活性化協議会（幹事会、専門部会を含む）を中心として、多様な関係主体との連携のもとに創意工夫しながら、目標達成に向けた取組みを着実に進めていく。

## II. 目標「来街者で賑わうまち(集客と回遊性の強化)」

### II-1. 数値目標の達成状況

(「中心市街地における歩行者通行量」→目標設定の考え方基本計画 P62、P64 参照)



年 (調査月)	H11	H14	H17	H19 (基準値)	H20 (H20.8)	H21	H22	H23	H24 (実績 数値)	H24 (目標 数値)
歩行者通行量 (人/日)	34,248	33,052	23,456	20,164	19,541					27,000

資料：北九州市調査

### II-2. 主要事業の進捗状況

- ・黒崎副都心賑わいづくり推進事業 平成17年度着手(継続事業)
- ・文化交流拠点地区の整備 平成20年度着手(暫定広場整備) 平成24年度完成予定
- ・まちのルールづくり 平成20年度着手予定
- ・子どもの館リニューアル事業 平成20年度着手予定 平成20年度完成予定
- ・コムシティの再生 平成20年度着手予定 平成21年度完成予定
- ・黒崎地区賑わい交流機能の整備 平成21年度着手予定

### II-3. 数値目標達成の見通し

事業の実施効果が目標数値に表れる段階ではないため、今回は評価対象外。

今後も基本計画掲載事業等の着実な進捗を図ることにより、目標達成可能と見込まれる。

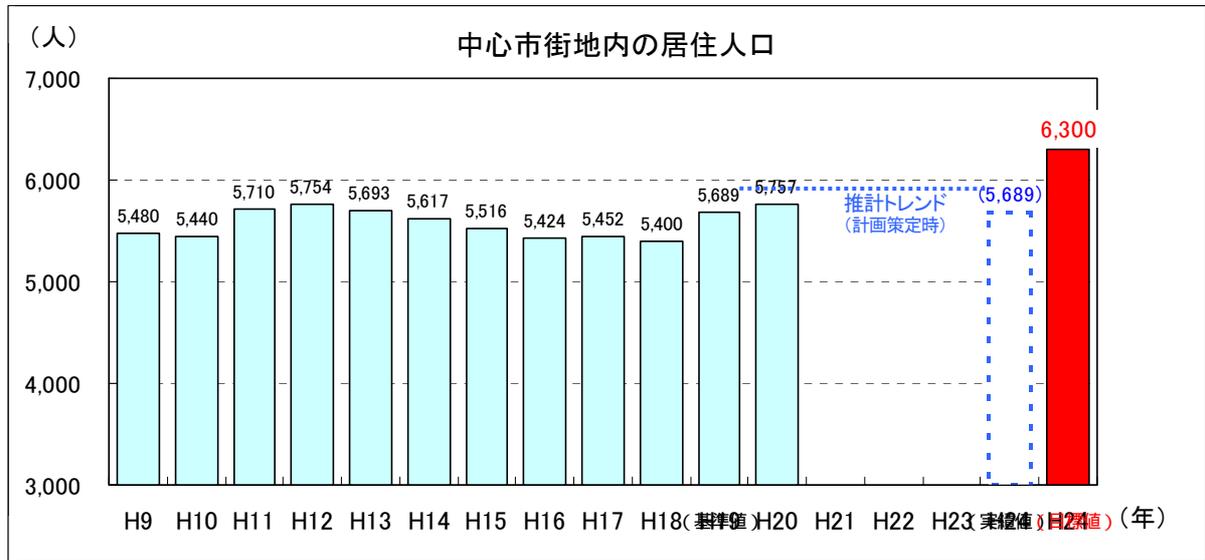
### II-4. 今後の対応について

目標達成に向けて、認定基本計画と連携した支援措置等の効果的な活用を図りながら、基本計画に位置付けた集客・回遊の促進を図るためのハード・ソフト事業を着実に推進していく。

### Ⅲ. 目標「住みたい・住み続けたいまち(定住人口の増進)」

#### Ⅲ-1. 数値目標の達成状況

(「中心市街地内の居住人口」→目標設定の考え方基本計画 P63、P73 参照)



年	H9	H10	H11	H12	H13	H14	H15	H16	H17
居住人口 (人)	5,480	5,440	5,710	5,754	5,693	5,617	5,516	5,424	5,452
年 (調査月)	H18	H19 (基準値)	H20 (H20.9)	H21	H22	H23	H24 (実績数値)	H24 (目標数値)	
居住人口 (人)	5,400	5,689	5,757					6,300	

資料：住民基本台帳

#### Ⅲ-2. 主要事業の進捗状況

- ・地区計画による土地利用規制 平成19年度着手 平成20年度実施
- ・黒崎中央小学校の建築事業 平成17年度着手 平成21年度完成予定
- ・文化交流拠点地区の整備 平成20年度着手(暫定広場整備) 平成24年度完成予定
- ・中心市街地における共同住宅の供給促進 平成20年度着手(事業者募集中)
- ・子どもの館リニューアル事業 平成20年度着手予定 平成20年度完成予定

#### Ⅲ-3. 数値目標達成の見通し

事業の実施効果が目標数値に表れる段階ではないため、今回は評価対象外。  
 今後も基本計画掲載事業等の着実な進捗を図ることにより、目標達成可能と見込まれる。

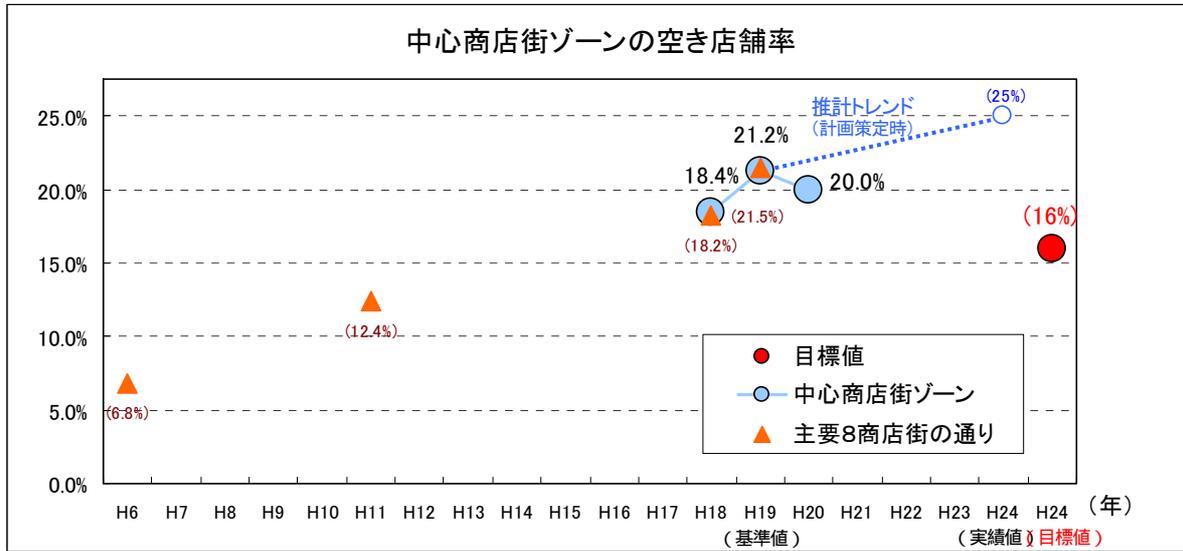
#### Ⅲ-4. 今後の対応について

目標達成に向けて、認定基本計画と連携した支援措置等の効果的な活用を図りながら、民間による住宅供給を促進するとともに、居住環境の向上に資するハード・ソフト事業を着実に推進していく。

#### IV. 目標「経済活力のあるまち(商業の活性化)」

##### IV-1. 数値目標の達成状況

(「中心商店街ゾーンの空き店舗率」→目標設定の考え方基本計画 P63、P85～86 参照)



年 (調査月)	H6	H11	H18	H19 (基準値)	H20 (H20.9)	H21	H22	H23	H24 (実績 数値)	H24 (目標 数値)
中心商店街ゾーンの 空き店舗率 (主要8商店街の通りの 空き店舗率)	— (6.8%)	— (12.4%)	18.4% (18.2%)	21.2% (21.5%)	20.0%					16%

資料：北九州市調査

##### IV-2. 主要事業の進捗状況

- ・商業ベンチャー育成モデル事業 平成18年度着手(継続事業)
- ・空き店舗賃借料補助制度の拡充 平成20年度着手(事業者募集中)
- ・まちのルールづくり 平成20年度着手予定
- ・黒崎地区賑わい交流機能の整備 平成21年度着手予定

##### IV-3. 数値目標達成の見通し

事業の実施効果が目標数値に表れる段階ではないため、今回は評価対象外。  
 今後も基本計画掲載事業等の着実な進捗を図ることにより、目標達成可能と見込まれる。

##### IV-4. 今後の対応について

目標達成に向けて、空き店舗の活用支援や既存店舗に対する経営サポート等により空き店舗の増加傾向に歯止めをかけるとともに、買物しやすい商店街環境づくりを進めるためのソフト事業等を着実に推進していく。

## V. その他

### 「基本計画の重要事項に関する変更等」

#### ・新しい北九州市基本構想・基本計画の策定（平成20年12月）

平成19年度に新・北九州市基本構想の策定に着手。平成20年10月に審議会からの答申を受け、平成20年12月、基本構想および基本計画（部門別計画）を策定した。

基本構想・基本計画では、従来どおり小倉都心・黒崎副都心を位置付け、都市機能を高め、にぎわいづくりを進めていくことや、環境負荷の低減や便利で快適に暮らせるまちづくりなどの観点から、本市の特色を活かしたコンパクトシティ（集約型都市）の形成を目指すことを盛り込んでいる。

今後も引き続き、基本構想などの上位計画との整合性を図りながら、中心市街地活性化に向けた取組みを進めていく。